



施工はまず、路肩にパイプルーフ支点用H支保工をアンカーで固定し、次に盛土厚さ毎に単管パイプを順次固定しながらソイルセメント盛土を行う作業の繰り返しであった、トンネル掘削影響範囲には、補強用ジオグリッドを施工し、路面にはH鋼敷鉄板にて覆工した。（図-1、図-2）

ソイルセメントの配合については、盛土土砂による試験配合を実施し、ソイルセメントの一般的な強度としての  $10 \text{ kgf/cm}^2$  の強度を目標に行い、その結果セメント量  $130 \text{ kg/m}^3$  の配合とした。

4. トンネル掘削補助工法

トンネル掘削における抗口破砕帯部補助工としては、掘削の緩みを最小に抑える必要があることから、先受け補助工として注入式フォアポーリング（21本/断面）、脚部補助工として注入式レッグパイル（2本/m左右）を採用した。（図-3）

5. 計測結果

道路付け替え工完了後のトンネル掘削に伴う内空変位量と地表面沈下の関係を図-4、図-5に示す。管理基準値の設定には、A計測で設定した管理基準値を採用した。

。（表-2）

内空変位の収束値が、天端沈下で 16.4 mm、L側斜測線で 8.2 mm、R側斜測線で 16.8 mm であるのに対し、地表面沈下では、L側沈下で 37.4 mm、センターで 51.4 mm、R側沈下で 51.3 mm と概ね内空変位量の 3 倍の変位量となった。（図-3）

6. おわりに

埋込ミニパイプルーフ併用ソイルセメント盛土及び、破砕帯部補助工の採用で、トンネル掘削への影響を最小限に抑えることができたと考えられる。また、通行車両への影響もなかった。

今回の工法では、特殊な機械及び、特殊作業員等を要せず普通作業員にて施工ができること、短期間での施工ができること、コスト削減が可能であったことであったこのことは、今後同種工事への利用が十分可能であると考えられる。

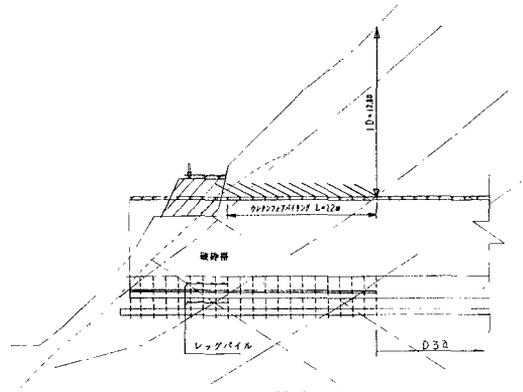


図-3 補助工法図

表-2 トンネル計測管理基準値（注意レベル）

施工パターン		B	C I	C II	D I	D II a
天端沈下	レベル I	5	5	6	10	20
	レベル II	7	8	9	15	30
	レベル III	10	11	12	20	41
内空変位 (注)	レベル I	10	11	12	20	29
	レベル II	15	16	18	30	43
	レベル III	20	22	24	40	58
内空変位 (注)	レベル I	3	3	4	6	9
	レベル II	4	5	6	9	14
	レベル III	6	7	8	13	19

<単位mm>

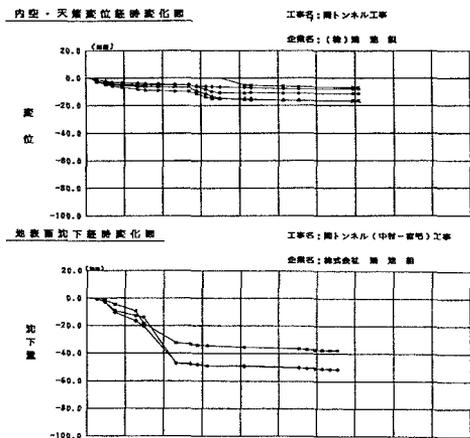


図-3 計測結果（経時変化図）

キーワード ミニパイプ ソイルセメント 道路付け替え  
 連絡先 (株) 鴻池組 大阪市中央区北久宝寺町3-6-1 TEL 06-244-3684